



□ ややや！小樽商科大学から100冊の本がやって来た

□ ブックハンティング行ってきました！

□ 私のお薦め本 第7回

吉田貴彦教授が『推理する医学』『続・推理する医学』『働く人のための探偵 ～アリス・ハミルトンを知っていますか？』の3冊を紹介します。

□ 図書館からのお知らせ

第2回図書館サイエンスカフェ「脳研究はどこへ向かうのか」を開催しました。
図書館利用マナーの再チェック～みんなで守ろう図書館のルール～

ややや！小樽商科大学から100冊の本がやって来た。テーマは「震災」



展示
公開中！

本学ではなかなか揃えられない分野の蔵書を他大学と交換する「ややや！」展示、今回は「震災」がテーマです。

小樽商科大学では今年、震災関係の授業を開講したそうですが、その関連資料として集められた資料のうち100冊をお借りしました。

「地震・津波発生メカニズムとその被害」「地震・津波と原子力災害」といった基礎知識や、交通システムや社会に及ぼす影響、情報システムの果たした役割から、医療体制や被災者心理、ボランティア活動など、事例に学び今後へ備えるための参考になる資料ばかりです。

限られた期間ではありますが、ぜひ沢山ご利用下さい！

ややや！
小樽商科大学から
100冊の本がやって来た
平成24年11月8日～30日

展示期間：
11月8日(木)～30日(金)
平日 9時～17時(予定)

図書館カウンター前で
展示中
借りることもできます

ブックハンティング行ってきました！ 本は近日中に貸出予定です！！



11月5日に今年第2回目となるブックハンティングを行いました。参加者7名は、1時間30分ほどのジュンク堂滞在時間を一杯使って、それぞれの興味のある「本」、オススメの「本」など思い思いに選んでくれました。今回もいろいろなジャンルの80冊が収穫されました。アンケートでは“楽しい！”“満足！”“次回も参加したい”という声も多く、自分好みの様々な「本」を選べるとあって、大いに楽しんでもらえたようです。本年はこれで最後となりましたが、来年もぜひ企画したいと思います。お楽しみに！！

収穫本のPOP作りに参加しませんか。

11月21日(水)15:00～17:00
図書館セミナー室
詳しくは図書館HPをご覧ください。
いち早く収穫本を見ちゃいましょう！！

ただいま貸出準備中の本たちです。貸出開始は11月末を予定しています！！

私のお薦め本 <第7回> 吉田 貴彦 教授 (健康科学)

○推理する医学 図・開架/医学専門 WA/105/SUI

○続・推理する医学 図・開架/医学専門 WA/105/SUI



今回紹介する3冊はいずれも翻訳本で、前2つは「The Medical Detectives」という原題である。著者はアメリカ合衆国のBerton Rouecheで、医師ではないが医学ジャーナリストとして雑誌『The New Yorker』に医学もののミステリーなどを掲載した。1947年から1984年までの45話を抜粋して2冊にまとめられたものである。時代順に並べたものではないが、正統として日本では1985年と1990年に山本俊一東京大学名誉教授によって翻訳されて出版された。

自らを疫学者と呼ぶ山本氏が翻訳を手がけたことからわかるとおり、疫学的手法を用いて健康障害(疾病)発症の原因を追う様が、あたかも探偵が犯人を追うがごとく真相が明らかにされる過程が臨場感をもって描かれている。

私は続編を先に手にしたが、1948年に米国で起こった大気汚染公害として有名なドノラ渓谷事件が取上げられており、学生時代に衛生学で学んだ事件が身近かつ新鮮に感じられたことを覚えている。疫学が苦手と感じている学生さんには是非読んでもらいたいと思う。

○働く人のための探偵～アリス・ハミルトンを知っていますか?～ 図・開架/医学専門 WZ/100/Hat

3冊目は「The Workers' Detective -A Story about Dr. Alice Hamilton-」という原題(著者Stephanie S. McPherson)の翻訳本である。

原因不明の病気と職業との関連を疫学的手法によって毒性学的に解明し、職業病を科学的に説明しアメリカ合衆国の現代産業医学の基礎を作った女性医師Alice Hamilton(1869-1970)の小伝記(発刊1992)である。産業医科大学の東敏昭名誉教授が監訳し2000年に出版された。

彼女は1893年に医師となり、女性参政権すら無い女性の立場が低かった時代にもかかわらず、当時の劣悪な産業現場に出向き困難をものともせず粘り強く経営者を説き伏せて現場に入り、労働現場をつぶさに観察し健康を害して苦しむ労働者と接するフィールド調査を通して、新しい医学の分野を切開いた先達の偉業を知ることができ、産業医学を志す者にとって感慨深いものである。

彼女はハーバード大学医学部の女性初の教授となるなど女性の社会進出を大いにすすめただけでなく、常に弱い立場にあった女性、子供、一般労働者の健康と権利を守り、企業の社会責任の確立を進め、さらには反戦を訴え平和活動にも貢献した人である。

1970年に米国で発行された切手には、彼女の肖像画とともに「Social Reformer」と記されている。



紹介した3冊の書物はDetectiveの言葉が共通して用いられており、医学という自然科学の探求には探偵のような探求心が必要なことを示している。いずれも古いものであるが、人間社会の中で人々の健康の課題にかかわる社会医学とは何かを知るには良い書物である。

第2回図書館サイエンスカフェ

「脳研究はどこへ向かうのか」を開催しました。

うちの先生ってやっぱりスゴイ!!!

昨年に続き2回目となる今回のサイエンスカフェは「脳研究は何処へ向かうのか」をテーマとし、卒業生でもある、高草木教授、船越教授、鎌田教授から、卒業後の経緯を織り交ぜて、それぞれの研究内容や最新の取組みを語っていただきました。

第一線を走る先生方の研究内容の発表は、画像や動画が盛り込まれた、学生生活ではなかなか見ることができないものばかりで、後半の参加者との双方向セッションでは、研究がここまで進んでいるとは知らなかった、感動したという発言や、医療の今後や卒業後の心構えに関する質問が相次ぎました。



「卒業後に入る研究室の環境は、何がチェックポイントか」という切実(?)な質問には、「環境は、人が作るものなので、自分で作ることができる。旭川医科大学のレベルは既に世界水準なので、安心して残って研究して欲しい!」と会場へ熱く呼びかけられ、満場の拍手で閉会しました。

次回もご期待ください!

図書館からのお知らせ

図書館利用マナーの再チェック
～みんなで守ろう図書館のルール～

- 入館時には学生証を
- 座席は1人1つ
- 座席利用カードを忘れずに
- 飲食はロビーで
- PC充電はロッカーで
- 使った資料は元の場所へ
- 閉館時には退館する

みなさんで快適な図書館を
目指しましょう!!!!